

帝京科学大学教員



おすすめの本

どの本から
読んでみる？

CONTENTS

生き方のヒント3	いのちのこと14
近藤 保彦 先生 (アニマルサイエンス学科)	佐伯 潤 先生 (アニマルサイエンス学科)
小黑 正幸 先生 (東京柔道整復学科)	戸澤 あきつ 先生 (アニマルサイエンス学科)
	福沢 節子 先生 (幼児保育学科)
考えよう4	長寿社会とスポーツ16
辻 由紀 先生 (看護学科)	小山 慎一 先生 (総合教育センター)
稲川 健太郎 先生 (教職センター)	持田 尚 先生 (学校教育学科)
行動しよう5	暮らしから学ぶ17
昇 寛 先生 (柔道整復学科)	小島 尚 先生 (生命科学科)
橋本 伸也 先生 (東京理学療法学科)	福田 八重 先生 (教職センター)
人との関わり6	過去の歴史から学ぶ18
大石 徹 先生 (東京柔道整復学科)	永沼 充 先生 (学校教育学科)
青柳 達也 先生 (理学療法学科)	近藤 保彦 先生 (アニマルサイエンス学科)
高田 由基 先生 (学校教育学科)	平林 茂 先生 (医学教育センター)
	本多 みどり 先生 (幼児保育学科)
自分を高める8	戦争の記憶20
今野 晃嗣 先生 (アニマルサイエンス学科)	大槻 千秋 先生 (こども学科)
舟喜 晶子 先生 (柔道整復学科)	井腰 圭介 先生 (総合教育センター)
アントニア・カプシク 先生 (学校教育学科)	物語の中の動物たち21
鈴木 幹夫 先生 (作業療法学科)	並木 美砂子 先生 (アニマルサイエンス学科)
大石 徹 先生 (東京柔道整復学科)	江田 慧子 先生 (学校教育学科)
高田 由基 先生 (学校教育学科)	文学を楽しむ22
他者への理解 11	山田 健司 先生 (医療福祉学科)
永沼 充 先生 (学校教育学科)	和田 龍一 先生 (自然環境学科)
橋本 伸也 先生 (東京理学療法学科)	鈴木 幹夫 先生 (作業療法学科)
医療・介護をもっと身近に! 12	
福沢 節子 先生 (幼児保育学科)	
杉山 渉 先生 (東京柔道整復学科)	
斉藤 幸喜 先生 (生命科学科)	



生き方のヒント



アニマルサイエンス学科
近藤 保彦 先生

自由奔放に生きた

鉞子のように。



『武士の娘』

杉本鉞子著 筑摩書房 【請求記号：289.1/Su38】

この本は彼女の自伝的小説です。1925年に"a daughter of the samurai"というタイトルでアメリカで出版され、おそらく日本人初のベストセラー小説となりました。その後、ヨーロッパ諸国でも出版され、世界的なベストセラーとなっています。したがってこの本は翻訳となりますが、本人と相談しながら翻訳をしたということです。

鉞子は、明治6年長岡藩の家老の娘として生まれ、幼少の頃を現在の新潟県長岡市で過ごしました。当時の子供たちの生きいきとした生活が描かれます。しかし、戊辰戦争により父、稲垣茂光が(丁重に)幽閉されたり、事業の失敗があったり、波乱万丈の子供時代を過ごします。その後、彼女は上京して(雪深い三国峠を避けて長野で善行寺参りしたり、長岡は東京から今よりずっと遠かったのでね)ミッションスクールに通い、結婚のためにアメリカに渡ることになります。明治から大正にかけて、こんなに自由奔放に生きた女性がいたのです。帝科の学生、特に女子学生にお勧めです。鉞子のように羽ばたいてもらいたいものです。



東京柔道整復学科
小黒 正幸 先生

『選択の科学 コロンビア大学ビジネススクール特別講義』
シーナ・アイエンガー著 文藝春秋
【請求記号：361.4/197】

選択とは 新しい扉を開け、 未来を創造すること。



今、これを読んでいるあなたはこの小冊子を手取ることを「選択」したと言える。

そして、ここで紹介された本を、読みたいと思って購入するか、借りるか、それとも興味がないから読まないかを「選択」するだろう。そもそも、そうするためには本学に来て、この小冊子を手に入れなければならない。本学に来ると言う「選択」をしたのも、また、あなたである。ではなぜ、ここに来ることを「選択」したのだろうか…というふうと考えていくと、これまでの人生が大なり小なり「選択」の連続であったことは容易に理解できるかと思う。そしてこれからも「選択」は続いて行くのである。

この本は、アメリカ移民でシーク教徒の子として生まれた盲目の著者が、大学で行った「選択」に関する研究をまとめたもので、「選択」を科学的に考察し、実例を挙げて論じている。ジャムの実験があまりにも有名だが、この実験は「人は選択肢が多ければ多いほど選択をあきらめる傾向にある」ということを示した一例に過

ぎない。その他にも、「なぜ選択するのか、してしまうのか」、「その力は何に基づき、何に影響されるのか」、「人はどのような過程を経て選択を行うのか」、「出身や教育が選択にどのような影響を与えるのか」など、多くの動物実験、心理学の実験を例にして、「選択」を理解するためのヒントを与えてくれている。人はどのように選択するかを論じたものであって、どのように選択をすべきかを指し示すものではないが、こうして「選択」の仕組みを知ることによって、より良い選択をするための助けになる一冊である。

誰にでも思い当たると思うが、選択には痛みが伴う。「あっちにしておけば良かった」というやつである。それでも私たちは感情的・精神的代償を支払っても、選択し続けなければならない。なぜなら「選択」することは新しい扉を開けて、未来を創造することにほかならないからである。こうして「選択」しつづけることで私たちは自分の人生を彩り、形作っていくのである。

ちなみにこの本の原題は「THE ART OF CHOOSING」である。

考えよう

まなびの本質を
考える種が
記載された一冊。



看護学科
辻 由紀 先生



『星へのプレリュード 新世紀版』
佐治晴夫著 一藝社 【請求記号：440.4/Sa26】

今回紹介する著書は、私たちに生きることを意味を伝えてくれるエッセイです。本書では私たちは星のカケラから生まれたことを前提とし、私たちの存在や存在の意味について著者自身の宇宙研究の立場から、また、数学、音楽、文学、哲学等、多分野の見地から語られています。

著者の多分野からの語りを読み、自分の苦手な分野に対する興味関心を覚えたのと同時に学ぶことの本質について考えさせられた一冊です。著者は本書の中で、「ものを考えるということの素晴らしさは、難しい本を繰り返して読むことだけでもなければ、巨大な機械にかじりついて宇宙を覗き込むだけでもない」と述べています。では一体、ものを考えることの素晴らしさとは…？

学生みなさんにぜひこの著書を手にとっていただき、この問いに対する著者の論考に触れ一粒の考える種を見つける機会になったらと思います紹介させていただきました。

教職センター
稲川 健太郎 先生



『日本探検』
梅棹忠夫著 講談社 【請求記号：291.09/U73】
『文明の生態史観^{ほか}』
梅棹忠夫著 中央公論新社 【請求記号：204/U73】
『知的生産の技術』
梅棹忠夫著 岩波書店 【請求記号：002.7/U73】

「なんにも知らないことはよいことだ。」スマホですぐに検索を始めるその君!もう少し話を聞き給え。「自分の足であるき、自分の目でみて、その経験から、自由にかんがえを発展させることができるからだ。知識は、あるきながらえられる。あるきながら本をよみ、よみながらかんがえ、かんがえながらあるく。これは、いちばんよい勉強の方法だ。(日本探検)」

このように揚言するフィールドの人、梅棹忠夫は「おたまじゃくしの社会行動」を数理解析して理学博士学位論文(著作集第三巻所収)をまとめ、広く外の世界を体験し、「諸現象をつらねる論理の構築にむかいたいというつよい誘惑にかられ(博物学から博物館へ)」、だが「連続してなにかある究極の目的につながるものである必要はまったくないのだ。そのときそのときに、全身全霊をあげてあそぶだけのことである(裏がえしの自伝)」と幅広くいろいろ考えた。この世界の在り方(文明の生態史観)や、「女は、妻であることを必要としない。そして男もまた、夫であることを必要としないのである(妻無用論)」などなど。

何も知らないことは
よいことだ。

自分の閃きを逃さず育てるためには「知的生産の技術」が必要だ。自分は理系だから、私は文系だから—そんなちっぽけな分類は忘れて、ついでにスマホも放置して、世界をよく見てみよう、あちこち歩いてみよう。「思想は使うべきものである。論ずるだけにあるものではない(アマチュア思想家宣言)」。デジタル・デトックスしながら自分の頭でよく考えてみよう。そのような時、「梅棹忠夫のことば」は旅の良いお供だ。ちょっとした時に梅棹忠夫が書いたものをぱっと開き、ブラウジングするだけでも大きな刺激が得られるだろう。



行動しよう

価値ある4年間に するために。

柔道整復学科
昇 寛 先生



『大学で何を学ぶか』

加藤諦三著 ベストセラーズ 【請求記号：377.9/Ka86】



「一行動はその背後にある動機を強化する」加藤諦三氏の講演会の締め括りの言葉であった。四十数年前のこの時の氏の講演テーマが「大学で何を学ぶか」、正に本書名である。

事前に有志らと同名の著書を読み漁り、講演会後の質問や議論に備えた。しかし、その講演の圧倒的な論理展開の拡がりとスピードに当時の我々学生は翻弄されたことを憶えている。

講演会では「大学で何を学ぶか」という論点よりも、大学4年間に如何にして価値ある4年間にするのか、という点に話が集約された。価値ある4年間にするのは“自分の意思と行動である”という結論であったように記憶している。

そして、冒頭の一文に帰結する。

自分を意識し、他人と区別化し、自分にしか出来ない行動を継続することの大切さを超論理的に論説された。

この一文、今でも自分に言い聞かせている。

東京理学療法学科
橋本 伸也 先生



『「考える力」をつける本』

轡田隆史著 三笠書房 【請求記号：141.5/Ku94】

本書は、「考える力とは、ものごとの細部にわたって積極的に行動する力」と位置づけ、「思考を具体的な行為に置き換えてみよう」というのが論者のスタンスです。数年前にリメイク発行されたもので、元は1997年刊行です。題材の多くは1990年代の出来事ですが、著者が伝えたい本質は変わらないのでそのまま採録しているとのこと。

書店のビジネス書コーナーに多い“ハウツー本”と趣が異なるのは、著者が新聞社の社会部デスクや論説委員を歴任し、批評し批評される“錬磨”を経ているからだろうと思います。読書法の章では、「読んで、つまらないと感じるのは読んだからであり、つまらないと判断できたことをむしろ誇るべき」と述べています。「あとから調べようの『あと』は永遠にやってこない」のだから、何か思いついたり、疑問を持ったりしたときの“行為”による時間の上手な使い方を提唱しています。論者の題材はやや古いのですが、本書が強調する「知の領域の広さ」と「なぜ」の問いで乗り越えられると思います。

思考を 具体的な行為に 置き換えてみよう。



人との関わり

「人に道を聞かれやすい人」 になれ。



東京柔道整復学科
大石 徹 先生



『いい空気を一瞬でつくる 誰とでも会話がはずむ42の法則』
秀島史香著 朝日新聞出版 【請求記号：361.454/H54】

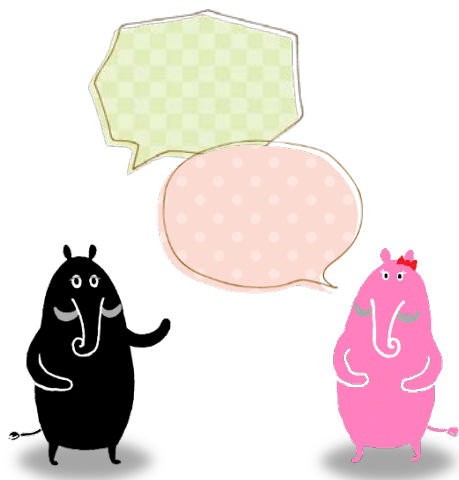
「人に道を聞かれやすい人」になれ

この本の中で最も印象的だったエピソードです。人は気難しい顔をしている人や、警戒心を抱く人に声をかけたりしませんよね。「よく人にものを尋ねられる」という人は、胸を張っていいと思うのです。他者に対して「開いて」いるのが伝わっているということですから。そして、そんな人には集まります。と語っていました。周りの人に対して「開いて」いるのが伝わる。なるほどなあ…と思いませんか？トーク力やテクニックの前にある、「何となく話しかけやすいなあ…」という雰囲気作り。

この本の中で彼女は、

- ・第一印象は、挨拶をする前に決まっている（「好感が持てそうだ」「信頼できそうだ」などと判断するまでにかかる時間は、わずか0.1秒！）
 - ・人に会ったらず、相手の「いいね!」を探す。そして、それを口に出す。
 - ・相手からの投げかけの質問の答えを「はい」から始める。
- など、経験から具体的なアドバイスをしてくれています。

初対面の方との会話のきっかけ作りから、緊張する状況でのマインドの持っていく方など、イメージしやすく、説得力があって、分かりやすい文章が綴られていて、スイスイと頭の中に入ってきました。人と接することを職業とする本学学生に一読して欲しい一冊です。



「自分の人生」を 生きるために。

理学療法学科
青柳 達也 先生



『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』
岸見一郎ほか著 ダイアモンド社 【請求記号：146.1/Ki58】



人からどう思われているかばかり気になる、人から嫌われたくないと思っている、「過去」の失敗や出来事が「現在」の自分がうまくいっていない原因だと考えている、そのような考え方をしている方は多いのではないのでしょうか。アドラー心理学の根底には「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」という考えがあります。このように人の評価を気にして生きている人は「他人の人生」を生きている、「不幸でいることを自分で選んでいる」ことになり、自分を苦しめてしまっているかもしれません。

本書では、自分を変えるために、物事に対する考え方や過去の出来事に対してどのように意味づけをすれば良いかなどが、「哲人」と「青年」との対話形式で書かれており、心理学や哲学に親しみのない方にも分かりやすい一冊です。自分を変えたいと思っている人はそのきっかけに、一度この本を読んでみてください。



学校教育学科
高田 由基 先生

『自信をもてる子が育つ こども哲学 “考える力”を自然に引き出す』
川辺洋平著 ワニブックス 【請求記号：379.9/Ka91】

子どもって何を考えているのかよくわからない。だから不思議で面白い。でもそんな子どもも実は一人一人考えや思いをもっていて、場があれば、相手がいれば話します。人前で話すことが苦手で、「ねえ見て」「ねえ聞いて」という言葉がよく聞かれるように、伝えたいことを、本当はたくさんもっているものです。私自身、小学校教員時代に子どもから教わったことです。

ただ、それを聞いてくれる人、安心して話せる人がいるかないか、これはとても重要。そういう人がいることで「安心感」が生まれ、それが積み重なって「自信」が生まれていくのだと思います。

この本では「子どもとの時間がとれない」「考える力を身につけさせたい」など、子育ての悩みや思いを子どもとの対話〈こども哲学〉によって、解決したり方向性を見つけたりしていく親・家庭の様子が対話形式で書かれています。子どもに興味がある、対話が好き、逆に聞くことが苦手、そんな人におすすめです。

「おわりに」では、著者が哲学を考えるきっかけになった父親とのエピソードが紹介され、家族への絶大なる信頼と感謝、こども哲学への熱い思いが伝わってきます。ぜひ最後まで堪能していただきたい一冊です。

※ 著者・川辺洋平氏は東京学芸大学で私と同期の友人です。

こども哲学と 著者のこども哲学への 思いを堪能してください。



自分を高める



アニマルサイエンス学科
今野 晃嗣 先生

思い込みを知り、
世界の正しい見方を
身につけよう。



『FACTFULNESS 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』
ハンス・ロスリングほか著 日経 BP 社 【請求記号：002.7/R72】

ぼくはいわゆる「ビジネス本」はあまり読まないのですが、いつのまにかポチッと注文していました。よい本だったので後悔はしていません。

本書の趣旨は、ヒトが陥りやすい思い込みを知り、世界の正しい見方を身につけましょう、というものです。冒頭のクイズを少し紹介しましょう。

Q1：世界の平均寿命はおおよそ何歳でしょう？

A：50歳、B：60歳、C：70歳

Q2：世界中で予防接種を受けている1歳児は何%でしょう？

A：20%、B：50%、C：80%

正しい答えはどちらもCなのですが、たぶんあなたも(ぼくと同じく)間違えましたよね？ その理由は、私たちヒトが「世界は分断されている(分断本能)」とか「世界がどんどん悪くなっている(ネガティブ本能)」とかいう思い込みをもっているからだ、と著者はいいます。

本書はヒトの認知バイアスをわかりやすく解説した良書だと思います。というわけで、この本を読んだ人と読んでいない人では、世界の見方が大きく異なるはずですよ！(分断本能ですね。言いすぎました。)



柔道整復学科
舟喜 晶子 先生

『センスは知識からはじまる』

水野学著 朝日新聞出版 【請求記号：675.3/Mi96】

センスという言葉は何故か聞き心地がよく、その響きは神がかった才能やあっと驚く閃きのようなものを想像させるかもしれません。

自分にはセンスがないと思いついていても子どもの頃には絵を描いたり、歌をうたったり、ダンスを踊ったりしたことで周囲から褒めてもらった経験はあるのでは？センスが良い・悪いなどと考えもしなかったあの頃、あなたは自由なセンスで人々の心を満たしたのです。しかし今のあなたがあの時と同じ方法で称賛を浴びる可能性は極めて低いと予想されます。なぜでしょうか。そもそも、良い・悪いと判断する材料は何でしょうか。それは教科書の内容を学ぶ理由とも共通するでしょう。

この本では多くの人が抱く「センスとは特別な人にだけ備わっている才能」という誤解を熊本県のゆるキャラ「くまモン」の生みの親である筆者が紐解いています。センスとは何か？センスのプロが教えてくれる一冊です。

センスとは何か？

センスのプロが

教えてくれます。



海外留学を

すべきか迷っている

全ての読者へ。



学校教育学科
アントニア・カブシク 先生



『逆転の留学』

高野幹生著 IBC パブリッシング 【請求記号：377.6/Ta47】

この本は、海外留学をするべきか迷っている全ての読者にお勧めです。

この本の特徴は、まずその読み易さにあります。本のサイズは漫画本くらいで、文章も分かり易く書かれています。内容も、既に多くの留学ハウツー本に書かれている内容ではなく、オリジナル性に富んでいます。著者はバランス良くケーススタディ、既存の考え方に対する批判、洞察力を用い、読者を留学へと導こうとしています。

本著は「逆転の留学」とは何かを定義することから始まり、3章から構成されています。第1章は、学生が留学に対して感じる一般的な不安や質問をあげ、それに対する回答を述べています。第2章は、多種多様な「海外留学」のスタイルやオプションを取り上げています。そしてスタイル毎のケーススタディも述べられています。第3章では、留学に対するアドバイスと精神的な準備について述べています。そして最後に、読者に留学をより身近に感じてもらう為に、アスペルガー症候群のナナオ ユリという個人の留学経験を取り上げています。この経験談によると、ナナオさんは留学することにより人間的に成長できたと書かれています。

本著は留学を目指す学生だけではなく、留学カウンセラーにとっても有益な情報源となります。また本著を推薦する最大の理由は、本著が言語習得や「グローバル人材の育成」に焦点を置くのではなく、各人の個人的な理由や精神面での準備や、留学後の精神的変化に関して言及している点にあります。

作業療法学科
鈴木 幹夫 先生



『知覚の哲学 ラジオ講演 1948年』

モーリス・メルロ=ポンティ著 筑摩書房 【請求記号：135.55/Me66】

知覚の成立には、運動(の遠心性コピー)や多種感覚のボトムアップ情報の統合が関わっていることはすでによく知られている。そのような、「認知における身体の役割を重視する考え」あるいは「知覚体験は、脳と身体と環境との間で進行する」といった考えの魁の一人がメルロ=ポンティであることは知っておいてもいいことだ。

これは、既に主著『知覚の現象学』を著した後のラジオ講演なので、内容は彼の著作の中では解り易い方だが、むしろこの本の最大の特徴はその構成で、本体のメルロの講演部分は数十ページのみで、他の300ページは訳者による詳細な注釈なのだ。注釈の内容は、遠近法、記号論、ゲーテの色彩論、セザンヌの技法、フロイトの症例…と多岐にわたり、学問とはかくあるべしと教えてくれる。

この本の後に訳者菅野樺樹の記号論などに進むもよし、あるいはメルロの他の著作やフロイトをひもとくもよし。そしてできれば、メルロもフロイトも(そしておそらくプルーストも)同じことを言っている(あるいは見ている)ことに気がついてほしい。

学問とは

かくあるべしと

教えてくれる一冊。



次ページへ
つづく

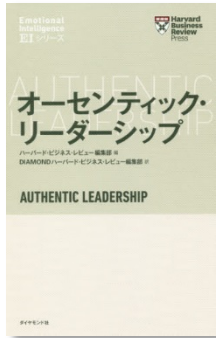


「ありのまま自分らしさ」と
「人のエゴ」を
混同してはいけない。

東京柔道整復学科
大石 徹 先生



『オーセンティック・リーダーシップ』
ハーバード・ビジネスレビュー編集部編 ダイヤモンド社
【請求記号：336.3/H11】



リーダーシップの研究は年々進められている。

オーセンティックとは「自分らしさ」ということ。自分の価値観に基づき決断、行動するというのは、ある著名な経営者の話の中にある「好き嫌いで投資を判断する、ただし自分の好き嫌いを明確にせよ」に通ずると感じた。“自分の好き嫌い” “自分の価値観”を人に説明できるくらい明確に持っているか。改めて自分に問いかけてみた。

3章「パネラビリティ」＝“弱さを隠さず、傷つくことをいとわない姿勢”は、自分の方向が定まれば過去の失敗は全て成長の糧になるということだと再確認させてもらった。また、新入社員研修において、個人のアイデンティティを重視した研修を行ったグループの定職率が組織重視型や従来型の研修を行ったグループよりも33%も高かったという。これは学校教育においても興味深いデータだ。

ただし、強く強調したいことがある。

「ありのままの自分らしさ」と「人のエゴ」を混同してはいけない。

いくつ歳を重ねても、メモを残したくなるそんな再確認することが多い一冊である。

学校教育学科
高田 由基 先生



『やり抜く力 GRIT 人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』
アンジェラ・ダックワース著 ダイヤモンド社 【請求記号：159/D93】

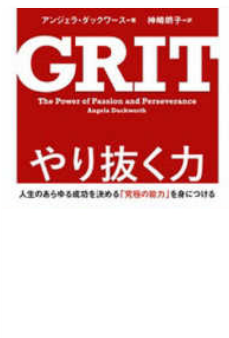
私は小学校の教員をしてきましたが、目標に向かって何度失敗しても諦めずに挑戦する子がいる一方、すぐに投げ出してしまう子、やる気を見せるが長続きしない子…、さまざまな子どもたちを見てきました。一方でそれは子どもに限ったことではありません。その違いは何なのか、どこからその差が生じるのか、やり抜く力を持つ人とはどんな人なのか。

作家、芸術家、ビジネス、アスリート…さまざまな世界、分野の“メガ成功者”たちの共通点「やり抜く力」について、緻密かつ膨大な研究の裏付けによる成果が記されています。

- ・「情熱」と「粘り強さ」を持つ人が結果を出す (P.22)
- ・一流の人は「当たり前のこと」ばかりしている (P.60)
- ・偉大な人とふつうの人の決定的なちがいは「動機の持続性」(P. 112)
- ・成功する「練習」の法則 (P. 164)
- ・子どものころの「ほめられ方」が一生を左右する (P.242)

教員を志す人をはじめ、人と関わる仕事に就こうと考えている人には、ぜひ読んでほしい一冊です。この本を読んで自身がやり抜く力<GRIT>を持ち、そしてやり抜く力<GRIT>を持つ人を育ててほしいと思います。

やり抜く力を持つひとは
どんな人か？



他者への理解



学校教育学科
永沼 充 先生

発達障害を持つ人への 理解を深めるために。



『発達障害当事者研究 ゆっくりていねいにつなかりたい』
綾屋紗月ほか著 医学書院 【請求記号：493.937/A98】

シリーズ「ケアをひらく」の中の一冊である。当事者研究とは、言語化しにくい困りごとを抱える当事者がその困りごとを研究対象として捉えなおし、解釈や対処法について研究することと共著者の熊谷氏が述べている。

本書では綾屋氏が自閉スペクトラム症の当事者、熊谷氏が研究者である。当事者研究はもともと精神障害者コミュニティから生まれたが今では、発達障害、薬物依存など困りごとを抱える人たちもそれぞれのやり方で進めている。共通点を見出し普遍化するという科学のやり方ではなく、あくまでも個に根ざした研究と捉える。

本書では「まとめあげ困難」という困りごとが取り上げられる。歩道を歩いているとき私たちはごく自然に前方の人を認識し遠方のクラクションを聞き分けるが、綾屋氏には全ての情報が同じレベルで一度に入ってきて感覚飽和を起こしパニックになる。そこでは景色は白黒2値のモザイクパターンに、意味ある音は雑音に埋もれる。自己の体内感覚も同じように感知され、その中から、例えば、お腹が空いたという感覚をまとめ上げることが難しい。

発達障害を持つ人を理解する手立ての一つとして一度は読んで欲しい書である。



東京理学療法学科
橋本 伸也 先生

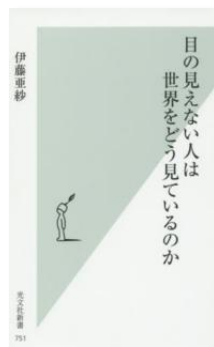
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』
伊藤亜紗著 光文社 【請求記号：369.275/189】

人の得る情報の8～9割は視覚と言われていますが、タイトルの通り、見えない人が世界をどうみているかを垣間見ようというのがこの本のテーマです。

視覚障害者や関係者へのインタビューに基づいて、見えない人による別の見え方を探ったり、違いを丁寧に確認する形で章が進みます。実のところ「見えない」にはさまざま状況があり、生まれつき見えない、中途失明、盲ろうが重複するかたもいます。この本が少し読みにくいのは、個別化し過ぎても一般化し過ぎても語れない世界の想像へ誘おうとする“手探り”の論考に由来していると思われる。

一般論になるのを避けつつも、他人の目で見えた「言葉」から世界の全貌を推理していることや、音で周囲を眺める日常のこと、さらに、死角はあるだろうかという問いもあり、この本は、「ここは違うな」「ここはわかる」「そうだろうか」という会話を読者に求めています。

見えない人が 世界をどう見ているかを 垣間見よう。



医療・介護をもっと身近に！



幼児保育学科
福沢 節子 先生

人の心の美しさや
生きる力に感動します。

『NHK 介護百人一首 2019』

NHK ほか編 日本放送出版協会 【請求記号：369.26/N69/2019】

本書は書店には売っておりません。本学の図書館には、私が寄贈させていただき2012年版から配架されております。私は本企画に応募してきたので、NHKから送られて来るのです。本書は、2006年から刊行されております。「介護する」「介護される」中で感じた素直な思いの「介護短歌」ですが、一万首ほどの応募の中から、百首が選ばれ、掲載されています。

この度おすすめするのは、私の歌が、思いがけず入選したこともあるのです。P. 48に掲載されておりますが、本稿に紹介させていただきます。

どのお歌にもしみじみと癒され、人の心の美しさや生きる力に感動することでしょう。ハンカチが必要かも？

また、掲載されているお歌はEテレ「ハートネットTV」で各季節に2回、年間計8回に分けて紹介されます。こちらも観てくださいね。応募も難しくありませんよ。

ちなみに、私の歌は8年前に逝った認知症の母の自立心を詠んだものです。

特養の引き出し開ければ下着ゴツリそのうち洗うつもりの母よ



東京柔道整復学科
杉山 渉 先生



『解剖医ジョン・ハンターの数奇な生涯』

ウェンディ・ムーア著 河出書房新社 【請求記号：289.3/H98】

主人公のジョン・ハンターが登場する頃の西洋の医学は、古代ギリシャ時代や中世から殆ど進歩していなかった。ヒポクラテスの唱えた「病気は体液の不均衡によって起こる」という古典的教義を鵜呑みにした医者が施す治療は、血を抜く「瀉血」か、毒を飲ませて吐かせるか、浣腸するかだった。当時の医学が人体生理学といかに乖離していたかが分かる。

ジョン・ハンターはそれらを憂い、治療をする上には人体の構造を実際の遺体を解剖し学ばなければならないと考え推奨し、死体集めに奔放し自ら1000体以上の解剖を行なっている。それらによって得た知識を外科手術にも応用し、外科医術を発展させ外科医の地位を向上させた。また彼はそれだけでなく、いろいろな動物を解剖し標本にし、人体との比較解剖を行なっている。

「歴史は繰り返す」という。歴史をたどることにより、将来どうなるかが見えてくる。医学においても然りである。現代は科学が発達し医療も飛躍的に発展しているが、医療の本質を見落としてはいけない。

是非この本を一読し、学問を学ぶ楽しさと医療人としての心構えを感じ取ることを期待している。

解剖学を

やさしく学ぼう！



岸先生、

カッコいいです。

生命科学科
斉藤 幸喜 先生



『フラジャイル 病理医岸京一郎の所見』

草水敏原作, 恵三朗漫画 講談社 【請求記号：726.1/Ku83/1~15】



日本では医者全体の0.6%しかいない病理医が主役の漫画です。数年前の連載開始時からリアルタイムで読んできていますが、最近になって講談社漫画賞を受賞したり、『医者と医学部がわかる2019』というMOOK本の表紙に載ったりと注目されてきて、ファンとしてはうれしいです(TVドラマ化もされたそうです)。

忙しい医療現場でろくに患者の話を聞かずに思い込みで診断し、「正しい診断書なんて、救命では6割出せば合格点ですよ」などと言う医者に対して、「6割の分際で今後はうちの診断書にケチをつけないでいただきたい」「うちは10割出しますよ」と言い切る岸先生、カッコいいです。常に機嫌が悪い岸先生が感染症内科から病理科に転科した理由は第9巻で。第9, 10巻の小児癌編や第13, 14巻の腎臓移植編は涙なしでは読めません。医学系の専門用語が頻出し、内容もかなり高度です。全ての学生におすすめですが、特に医療系の学生にはぜひ読んでほしいと思います。

いのちのこと

人や動物の命と 関わっていく学生に。



アニマルサイエンス学科
佐伯 潤 先生

『いのちの木』

ブリッタ・テッケントラップ作絵 ポプラ社 【請求記号：726.6/Te13】



『いのちの木』という絵本を推薦したいと思います。大学生に絵本を推薦するというには違和感があるかも知れませんが、長年、小さな命達と向き合う仕事をしている中で、とても心に響いた物語でした。

主人公は森に棲むキツネなのですが、お話の冒頭に永遠の眠りについてしまいます。暗く哀しい物語かと思ってしまうかも知れませんが、決してそうではありません。悲しみに暮れる森の動物達がキツネとの思い出を語り合う中で、次第に悲しみが癒されていきます。短いお話なのですが、読み終わると心が温かくなり、「死」ということを深く考えさせられます。

人や動物の命と関わっていく学生には、是非、読んでもらいたいと思います。また、大切な人や小さな家族を失ってしまった時や、卒業後にその様な人達と向き合い、何か言葉をかけなければならなくなった時、思い出してもらいたい本です。



アニマルサイエンス学科
戸澤 あきつ 先生



『食べることの哲学』

檜垣立哉著 世界思想社 【請求記号：383.8/H55】

本書の冒頭には「われわれは何かを殺して食べている」とある。皆さんにとっては少し衝撃的な言葉かもしれない。「動物の肉は食べないベジタリアンである」という人もいるかもしれないが、それでも植物という生命体の命を絶ち、食しているのである。では、「食べなければいい」のだろうか。でも食べなければ生きられない。実は「食べること」にはこのような矛盾が多く隠されている。

なぜ同種同士を食べる「カニバリズム」はタブーなのか。「いのちの授業」として、食べるために動物を育てることは本当の教育とはいえないのか。日本で行われているイルカ・クジラ漁は、なぜ海外からは批判される的となるのか。毎日の食事の中で常に考える必要はないが、このような本を読んだときどきは「生命を食べること・食べていること」について考えてもらいたい。

「生命を 食べること 食べていること」 を考える。



私達みんな

胎児だったのです！

幼児保育学科
福沢 節子 先生



『胎児のはなし』

増崎英明ほか著 ミシマ社 【請求記号：495.6/Ma69】



「オギャーと生まれた時から…」とはよく聞かれる言葉です。しかし、生命はこの世に誕生することによって始まるのではなく、母の胎内からすでに始まっているのです。当たり前のことですが、実は、受精の瞬間から始まる胎生期こそ、人生においてとても重要な期間なのです。でも、学生たちは胎児についてあまり意識していないのではないのでしょうか？

「子どもの保健」を学ぶ学生にはもちろんのこと、他学科の学生にもいのちをまなぶキャンパスにあって、読んでほしい本ですね。

本書は、2019年に発刊されたばかりで、生きたまま見られるようになってきた胎児の最新の情報が網羅されています。産婦人科医とジャーナリストとの質疑応答の形式で進められ、親しみやすいですよ。「胎児—この未知なるもの」「胎児を救う」など。だって、私達みんな胎児だったのですよね。そして、将来、胎児にとしく出会うであろう皆さんに、おすすめしたいと思います。

長寿社会とスポーツ

最期まで 自分の足で しっかり歩くために。



総合教育センター
小山 慎一先生



『死ぬまで歩くためのストレッチ法』
横山格郎監修 榎出版社 【請求記号：781.4/V79】

日本人は平均寿命が世界でもトップクラスに長いことはよく知られています。ところが最近、「健康寿命」という言葉をよく耳にしますね。実は日本人の平均寿命と健康寿命には、約10年もの差があることをご存じでしょうか。

ここで言う健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されない期間を表わします。つまり多くの人が国の定める要支援・要介護の状態にあり、何らかの支援が必要な状態で最期の約10年間を過ごしているわけです。人生100年時代と言われる現代、長生きはしたいものですが、最期まで自分の足でしっかり歩きたいものです。要支援・要介護の原因の約20%が関節・骨によるものです。関節と骨が弱ってしまうと、健康寿命を縮めることにつながります。このことを解決する方策のひとつがストレッチです。年々減っていく筋肉量は、ストレッチをすることで何歳からでも増やすことができると言われています。

学生のみなさんには以下の二つのことを提案します。ひとつは若い今のうちから運動をする習慣を身につけておくこと。もうひとつはあなたの大切な家族が長く健康で過ごせるようにアドバイスできるようになることです。

学校教育学科
持田 尚 先生



『スポーツ医学の立場からみた小学校の体育』
中嶋寛之著 ナップ 【請求記号：375.492/N34】

来年度にはとうとう東京にオリンピックがやって来ます。1896年から始まった近代オリンピックの第32回大会にあたり、東京開催は1964年以来の2回目となります。東京でのオリンピック開催の歴史は日本の体育・スポーツの発展と国民の健康づくりに大きく影響をおよぼしてきました。平均寿命が80歳から90歳になろうという日本社会では、100年耐えられる体づくりが望めます。しかしながら、高齢者の体は筋肉が減り、ひざ痛、腰痛といった関節痛を抱え、元気に歩くことさえままならない状態となりやすく、長寿社会での健康づくり、体づくりが心配されています。

その心配を抜本的かつ長期的解決策として、医学界から「体育」に注目が集まっています。体育・スポーツが日本の未来を元気にするためには、どのようにあるべきなのか、長寿社会だからこその子どもの体育・スポーツをどうすべきなのかを教えてくれる書籍となっています。学生のみならず全教員にも読んでほしい1冊です。

これからの 体育・スポーツは どうあるべきなのか。

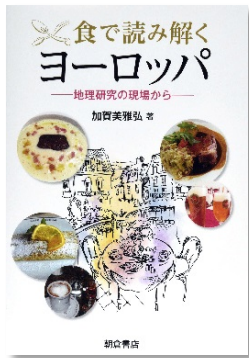


暮らしから学ぶ



生命科学科
小島 尚 先生

こんな授業があったら
どんなに楽しいだろう。



『食で読み解くヨーロッパ 地理研究の現場から』
加賀美雅弘著 朝倉書店 【請求記号：383.83/Ka16】

著者は地理を専攻する教員で食とは直接、関係がないように思われたが、ヨーロッパを研究対象としてフィールドワークを行なった経験に基づくものである。

グローバル化と多様な価値観がインターネットの普及などにより加速されている。このような時代にあり、ヨーロッパは近現代の規範や価値観を示してきた。過去の2回の大戦をはじめ多くの戦乱を乗り越えてEUのもとに統合と各地域のアイデンティティを大切にしている。その姿を幅広い知見と共に食の視点から地理的考察を加えて読み解いている。

ローマ時代から令和の今年まで、日本の特徴や特異性を鑑み実に分かりやすく解説している。その内容は各章のタイトルに著されており、「第1章はヨーロッパの地域性を食卓で読み解く、第2章は自然と農業をムギと油脂で読み解く、第3章は農村の変化をジャガイモで読み解く、第4章は都市の景観を砂糖で読み解く、第5章は観光地の発展をミネラルウォーターで読み解く、第6章は工業化をビールで読み解く、第7章は多文化社会をエスニック料理で読み解く、第8章は地域の個性化をトウモロコシで読み解く、第9章はグローバル化をコーヒーで読み解く、第10章はヨーロッパを食で読み解く」といづれも思わず読みたくなる。このような地歴の授業であったら、どんなに楽しいかと想像してしまう。



教職センター
福田 八重 先生

『土佐の一本釣り』
青柳裕介著 小学館 【請求記号：726.1/A57/1】

グローバルという言葉があるが、本当に世界のことをわかるためには、大切なのは「私(足元)＝そこに暮らす人(地域住民)」を見ようとするかが鍵だ。そして、「私(足元)＝そこに暮らす人(地域住民)≧地域≧都道府県≧日本≧世界の順」で見てみることだ。

「海の幸と山の幸で生計を立てている者たちが、背中合わせで暮らしてる土地の狭い僕らの国」、それが私の出身地の高知県だ。目の前は海、すぐ後ろには山。山と海をつなぐように川が流れ、海山に挟まれた小さな土地に農村・漁村がある。「南国土佐を後にして」という歌があるが、出て行く者の多くは、帰れない覚悟を決め、日々、ふるさとに返せるものはあるかを考える。残る者は、高知でどう暮らして生きるのか、みんなあ(土佐弁)が幸せになる暮らしを考える。戻る者は都会で得たものを、高知が花咲くために役立てられないかと考える。

このマンガの舞台は高知県の土佐久礼。カツオの一本釣りで生きる人が暮らす。生まれた土地で生きることを決めた人々の暮らしと生きざまを描いた物語だ。主人公は純平15歳。中学を出てすぐカツオの一本釣り漁師になる。

物語では、純平の漁師としての成長、幼なじみ八千代との恋、青年になるまでの自立、そして、「この浜の人達、お互いが必要としているもの。どっちが欠けてもダメな人生を送ってるもの。」と表される暮らしと慣習や文化、一本釣り漁の場面、自然の恐さ有り難さ。そこに息づいている暮らしが丁寧に描かれた作品だ。

土佐に息づく暮らしが
丁寧に描かれた作品。



過去の歴史から学ぶ



学校教育学科
永沼 充 先生

自律的に進む 科学技術開発を 止める方法はあるか？

『科学者と魔法使いの弟子 科学と非科学の境界』
中尾麻伊香著 青土社 【請求記号：402/N41】



書名の「魔法使いの弟子」は、師匠の留守中にズルをして^{ほうき}箒に魔法をかけ水汲みをさせるが、魔法の解き方を知らず家中を水浸しにしてしまうというゲーテの詩からの引用である。原子力の解放過程を軸に、魔法使いを科学者に置き換えて、ニュートンの錬金術からSTAP細胞まで幅広く論じている。コンピュータ科学の基礎を築きながら原爆開発計画に参画したフォン・ノイマンにも紙面を割り、マッドサイエンティストとしての側面を明らかにしつつ、核力の解放に関わった多くの物理学者のその後も触れ、歴史の読み物としても面白い。

少数の著名な科学者ではなく平凡な多数の研究者が関わる科学技術開発においても本書と同じことが言えるのではないだろうか。時代の寵児となったAI技術も誰も解き方を知らない魔法となる可能性を^{はら}孕んでいる。2045年にAIが人間を超えるというシンギュラリティー問題を未来学者の戯言と片づけるのは危険であろう。

著者は新進気鋭の若い研究者であるが科学技術に対する真摯な視点が感じられる。私たちはいまだに箒に水汲みを止めさせる方法—自律的に進む科学技術を止める方法—がわからない、というあとかぎの言葉が印象に残る。



アニマルサイエンス学科
近藤 保彦 先生

『宝島』
真藤順文著 講談社 【請求記号：913.6/Sh62】

1945年日本の敗戦によって沖縄はアメリカの統治下に入り、^{うちなんちゅ}沖縄人は日本の憲法にもアメリカの憲法にも守られない非常に弱い立場となりました。そして貧困を補うためアメリカ軍基地から食糧・物資を略奪する戦果アギヤーとよばれる若者たちが現れました。この小説は、そんな戦果アギヤーのなかでねずみ小僧のごとく戦果を貧しい人たちに配るヒーローと3人の仲間たちの活動から始まります。ところが他のグループとともに嘉手納基地に略奪に忍び込んだ際、アメリカ軍に見つかって4人はバラバラになってしまいます。そしてヒーローはとんでもない戦果を持って行方が分からなくなってしまいます。

この小説は、アメリカ占領下の沖縄という特殊な環境、そして宮森小学校米軍機墜落事故やコザ騒動といった史実を交えながら、ヒーローを失った3人の若者たちの青春と生きざまを描いた物語です。最後には驚くような結末が待っているだけでなく、私たちが知らなかった返還前の^{やまとんちゅ}沖縄人の生活や本土人に対する気持ちが描かれていて興味深く読むことができました。

占領下の沖縄を舞台に描かれる 若者たちの青春と生きざま。



近代日本が

たどった歴史を俯瞰し、
理解しやすく解説した名著。



医学教育センター
平林 茂 先生



『昭和史 1926-1945』
半藤一利著 平凡社【請求記号：210.7/H29/1】

ドイツ帝国宰相ビスマルクは「愚者は経験に学び賢者は歴史に学ぶ」という名言を残した。

元号が令和に代わり「激動の昭和」がますます遠ざかる中で、明治維新後に急速に発展・近代化した日本が、幾多の戦争を経てしだいに軍部に支配され、結局昭和20年(1945年)に太平洋戦争に敗れて滅びるまでの歴史を学ぶことはとりわけ重要である。戦前の軍部は、テロやクーデターにより言論を弾圧し、正統な指揮系統を無視して勝手な軍事行動を起こし、天皇の権威を盾に自らの権力を拡大して、国を私物化していった。

似たような状況は、現在の日本の社会や身近な組織でも生じうる。組織において、組織図に載ってもしない人物が、トップと個人的に親しいという理由で人事や運営に介入し、それが秘密裡に決定事項となるとなれば、これはまさにトップの名と権威を利用した組織の私物化である。

本書は、近代日本がたどったこれら負の歴史を海外事情と関連させて俯瞰し、理解しやすく解説した名著である。

幼児保育学科
本多 みどり先生



『知ってはいけない現代史の正体』
馬淵睦夫著 SB クリエイティブ【請求記号：209.7/Ma12】

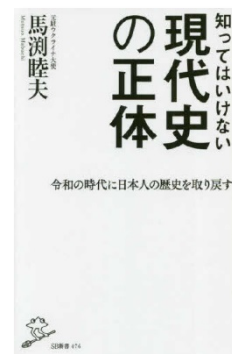
驚きの書である。著者は、元ウクライナ大使、日本を代表して諸外国の要人と交際してきた教養人である。

まず驚かされるのは、ロシア革命を起こしたのはユダヤ人であるという指摘である。馬淵大使は、すべて公開資料を基に議論を展開しており、「陰謀論」として簡単に片づけられない説得力がある。アメリカの支配者もユダヤ系財閥、金融(金)・司法(法)・政治(力)を握る影の支配者であるという(ディープ・ステイト)。大統領も彼らの操り人形で、彼らを怒らせると、ケネディ大統領のように公開処刑されるというわけだ。そのきっかけを開いたのが、ウィルソン大統領(第28代)の不倫もみ消しというから、驚きを通り越して笑ってしまった。

つまり、およそ100年にわたる支配、それが今、トランプ大統領(第45代)の出現によって変わり始めている。ディープ・ステイトは、自由貿易を求めるグローバルリストであり、トランプ大統領は「アメリカ・ファースト」を標榜するナショナリストである。この新秩序をめぐる闘いと、新覇権国をめぐる闘い(米中衝突)の真ただ中に、私たちはいる。俄然、面白くなってきた。まず、歴史を学びなおさねばならない。平和ボケからの覚醒は容易ではないけれど、たった一つの故郷ジャパンを守り、さらに発展させるために。

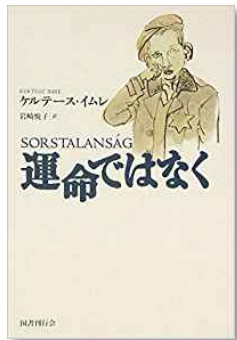
故郷ジャパンを守り

さらに発展させるために。



戦争の記憶

しなやかに耐え抜いた その生き方に 学んでほしい。



こども学科
大槻 千秋 先生

『運命ではなく』

ケルテース・イムレ著 国書刊行会 【請求記号：993.73/Ke59】

ナチスによるユダヤ人虐殺については、多くの本が出ています。『アンネの日記』は有名ですし、池田香代子氏の再訳による、ビクトール・フランクルの『夜と霧』もよく知られています。戦争は人を狂気に駆り立てるものだとはいえ、なぜこんな残虐なことができるのでしょうか。

『運命ではなく』の作者のケルテース・イムレはハンガリーの作家です。2002年にノーベル文学賞を受賞しました。ハンガリーは日本と同じく姓名の順になっているので、ケルテースが苗字、イムレが名前です。

この本の主人公ジェルジュ少年（作者ケルテース・イムレ自身が投影されています）は14歳でナチスの収容所に送られます。想像を絶する過酷な環境の中、周りの人々が次々に亡くなっていく中で、彼がどのようにして生き延びたのか、その記録がこの本です。学生諸君には遠い世界のことかもしれませんが、極限の世界でしなやかに耐え抜いたその生き方に学んでほしいと思います。



総合教育センター
井腰 圭介 先生

『四つの小さなパン切れ』

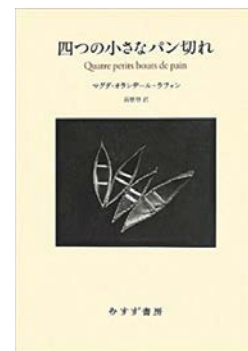
マグダ・オランダール＝ラフォン著 みすず書房 【請求記号：956/H83】

字の少ない、詩のような、短い文章で、いろいろな記憶が書きとめられている本です。著者はアウシュビッツの強制収容所から生還した、わずかな生存者の一人。そのとき彼女は若く、瀕死の女性から、かびた四つの小さなパン切れをもらいました。

僕はまだこの本を通読したことがありません。だから推薦するのは奇妙かもしれませんが、この本のタイトルにもなっているエピソードに触れた「わたしの人生の意味」というページだけは何度も開いてきました。編集者の序文には、こう書いてあります。「人間が最悪のこともなしうる存在であることは、知っておくべきだろう。しかし、この本が呼び起こすのは最善の姿だ」。

8月になると昭和の戦争のことが報じられます。僕も戦争を知らない世代ですが、彼女の記憶に触れると、それがいかに無意味なものであるかを、人間として痛感します。自分の今を照らし返す鏡として、機会があれば、小さなパン切れのエピソードだけでも読んでみてください。

自分の今を 照らし返す鏡として。



物語の中の動物たち

猫になれる一瞬を この本で。



アニマルサイエンス学科
並木 美砂子 先生



『吾輩は猫である』

夏目漱石著 新潮社 岩波書店 【請求記号：913.6/N58】

誰もが一度は手にしたかもしれない名著の一冊。なかでも第7章の中の「^{かまきり}蠶螂」を相手とした狩りの描写をぜひ丁寧に読んでみましょう。「吾輩」の運動能力を高め、確かめる上で必要なこととして、虫たちを狩る場面が語られますが、「吾輩」に対して、さまざまな抵抗を試み、最後はその手にかかってしまう虫たちの様子は、かなりの集中力でその一瞬の攻撃状況を見ていないと書けない、すぐれた生態観察記録となっています。描写に用いられる比喩もおもしろく、例えば、蠶螂の背が割れて、中にたたまれていた羽が見えるところを「『吉野紙』のような下着」と表現するあたり、読者もこの場面に引きつけられることでしょう。

蟬狩りの場面も含め、全体として「吾輩」すなわち猫特有の遊び狩りの習慣を知ることができますが、主人公の前で見せる虫たちのたくましくも哀れな状況描写には、虫の心理を^{おもんぼか}慮るとともに、どこか人間への風刺的な要素もかいまみられて奥深いものがあります。

最後に蛇足を。「坊っちゃん」は、映画になって楽しめますが、「猫」のほうは朗読がよいに決まっていると私は思います。いかがでしょう？

学校教育学科
江田 慧子 先生



『ちょうちよのりりい オオルリシジミのおはなし』

江田慧子作、さくらい史門絵 オフィスエム 【請求記号：486.8/Ko16】

オオルリシジミというチョウを知っていますか。

この絵本はオオルリシジミがどのように生まれ、多くの天敵や友達に助けられながら最後には瑠璃色の美しい^{はな}翅をもつ成虫になるかという生態学的知見を、絵本の柔らかいニュアンスで伝えています。絵本にはメアカタマゴバチやクロオオアリといった専門の昆虫たちも出てきますので、マニアックな昆虫の名前を知るのには最適です。

そんなオオルリシジミですが、日本の長野県と熊本県、大分県のそれぞれ一部にしか生息していないことから絶滅危惧Ⅰ類という非常に絶滅の恐れが高いランクに分類されています。オオルリシジミはかつての里山環境に生息していましたが、環境が壊れてしまったことで、オオルリシジミも絶滅に追い込まれています。私たちにとって、名もなき昆虫ですが、実は私たちが住む地球の環境が悪化していることを知らせてくれるとても大切なシンボルなのです。

幻のチョウ

オオルリシジミを 知っていますか？



文学を楽しむ

医療福祉学科
山田 健司 先生



物語全体が
メタファー（隠喩）！

『よるのばけもの』

住野よる著 双葉社 【請求記号：913.6/Su63】

著者は、『君の臓腑を食べたい』で一世を風靡。これは3作目です。題材は、いじめ。なんと、物語全体がメタファー（^{いんげん}隠喩）になっています。いじめる人といじめられる人、やる・やられる、という関係はビジュアルで、じつは、両者の中に相手がいとも顔をのぞかせて通信し合っている、ほんとうは一体？というほとんど真実、これをばけものが使者として読者の機微に入り込み、読経のごとく語りかけてくる、思い知らされる秀作。



隠れたR指定系の 名著三部作。

『悪童日記』『ふたりの証拠』『第三の嘘』

アゴタ・クリストフ著 早川書房 【請求記号：953.7/Kr5】

読書好きには、とても地味ですが^{てな}堪えられない隠れたR指定系の名著三部作です。グローバル化をよぶ原因は、ずっと前から同様で、いつも市井*の者を翻弄しつつ（ときに死を）また新たな地平へと誘う。末路を問わず苦悶と共に発つのか、^{あらが}抗い留まるのか。その岐路の残酷なまでの一瞬を散りばめた著者は、ハンガリー出身でグローバルを生き没した女性作家。下手な言訳を友に同質への帰属や安住を促す者の臆病は、今も昔もいっしょ、ですね。

* 市井(しせい)： まち。ちまた。庶民。





自然環境学科
和田 龍一 先生

『赤い指』

東野圭吾著 講談社 【請求記号：913.6/H55】

私のお勧めの本は東野圭吾著の『赤い指』です。私は子供のころ推理小説が好きで、小学校の時には授業中に隠れて机の下でこっそり読んでいました。(今では学校の先生に完全にばれていたことがよくわかります!) またトリックを自分で考えた推理小説を書いて、学級文庫に勝手においたりしていました。東野圭吾は、『ガリレオ』などの作品があり、テレビドラマや映画になっていることからみなさんもお存じの方が多いと思います。

今回みなさんに紹介する『赤い指』は、殺人事件をきっかけとして家族の繋がりを描いた物語です。本当に泣けます。クライマックスでは私は読みながら、ずっと泣いていました。推理小説やミステリからさらに一步踏み込んだ小説です。もしよければ手にとって読んでみてもらえたらと思います。

本当に泣けます！



色あせることのない
想像力と感覚の瑞々しさが
つまった奇跡の本。



作業療法学科
鈴木 幹夫 先生

『梶井基次郎全集 全一卷』

梶井基次郎著 筑摩書房 【請求記号：913.6/Ka22】

ある夕方、梶井基次郎が友人らと散歩の途中、道の傍らに小さな鼻緒の下駄が忘れられているのを見て、「これは夕餉の支度ができて迎えに来た母親に女の子が抱きついたところを、母親が抱っこして、そのとき足から離れた下駄が転がったのをそのまま忘れていったんや」と言ったというエピソードをどこかで読んだ記憶がある。またある作家は、『檸檬』を読み進んでいくうちに、頭の中には無数の色や物の匂いが広がってきた、という。

100年前に生きた作家であるにもかかわらず、その想像力と感覚の瑞々しさは全く色あせず現在にも通用する。当時の宿痾*である結核で31歳で斃れたにもかかわらず、最期まで前向きだったのは、彼が真に健康であったことを示している。もっと長生きしてトルストイのような大作家になりたかった、とも言ったそうだが、梶井よ、おまえはトルストイでなく梶井でええんや。そんな彼の全作品や草稿などすべてが入っても文庫本1冊に収まり、かつ1000円しないというのだから、これは奇跡の本としか言いようがない。

* 宿痾(しゅくあ): 長い間治らない病気。





2019年10月15日発行

帝京科学大学附属図書館 e-mail: library@ntu.ac.jp <http://www.ntu.ac.jp/library/>

千住図書館 東京都足立区千住桜木1-11-1 TEL 03-6910-3705 FAX 03-6910-3801

東京西図書館 山梨県上野原市八ッ沢2525 TEL 0554-63-6914 FAX 0554-63-4432